

美術館誕生 — 松方コレクションと大原コレクション

2019年4月26日(金) 18:30 - 20:00

国立西洋美術館 講堂 (企画展示館地下2階)

定員 130名 | 当日 17:30 より本館 1階東口付近にて整理券を配付いたします。
場所が不明な場合は、インフォメーションでお尋ねください。

※ご参加には整理券が必要です。

※「ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」展をご覧いただく場合には、チケットの購入が必要です。

※金曜・土曜日の夜間開館時(17時以降)の常設展の観覧料は無料です。

参加
無料

司会進行：馬淵明子 (国立西洋美術館長、ジャポニスム学会会長)

登壇者：吉川あゆみ (大原美術館 主任学芸員) / 川口雅子 (国立西洋美術館 主任研究員)

国立西洋美術館の基礎となったコレクションを築いた松方幸次郎。松方と同じ頃にヨーロッパへ渡り、作品の収集にあたっていた人物をご存知でしょうか。岡山出身の画家児島虎次郎です。児島は、倉敷で幅広く活躍していた実業家の大原孫三郎に渡欧をすすめられ、そこで制作に励むかわら、大原の支援を受けて西洋の美術品の収集にあたりました。このコレクションが基となり設立されたのが大原美術館です。

海外旅行が一般的でなかった時代に、日本人々に西洋の美術品をみせたいと願った松方幸次郎と大原孫三郎、児島虎次郎。

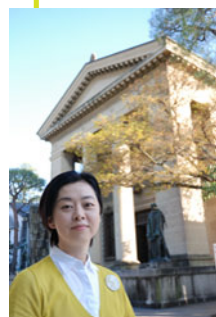
松方と児島の熱心な収集活動によって 1920年代に生まれた2つの大コレクションについて、大原美術館より主任学芸員の吉川あゆみさんをお招きして、当館主任研究員の川口雅子とともにお話いただきます。



▲株式会社川崎造船所 (現川崎重工業株式会社) 初代社長 松方幸次郎
写真提供：川崎重工業株式会社



大原孫三郎 (左) と児島虎次郎 (右) ▶

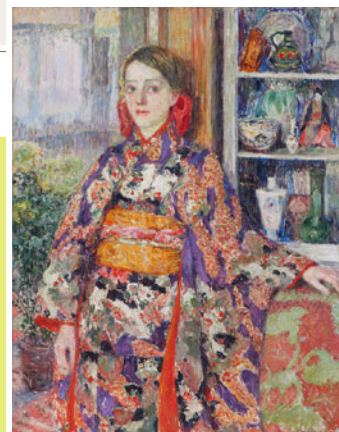


吉川あゆみ

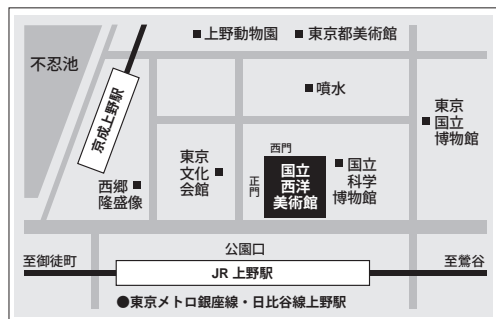
公益財団法人大原美術館主任学芸員。1971年佐賀県生まれ。岡山大学文学部卒業後、同大学院文学研究科進学と同時に岡山県立美術館勤務。2002年より公益財団法人大原美術館学芸員、2010年より現職。「もうひとつの児島虎次郎展—描く喜び、作る喜び」(2011年)、「名品たちの現代 (コンテンポラリー)」(2013年)など同館コレクションによる企画展示のほか、国立新美術館や北海道立近代美術館での大原美術館コレクション展を担当。現在、新たな展示施設「新児島館 (仮称)」の開館に向けて準備中。



エル・グレコ《受胎告知》
大原美術館



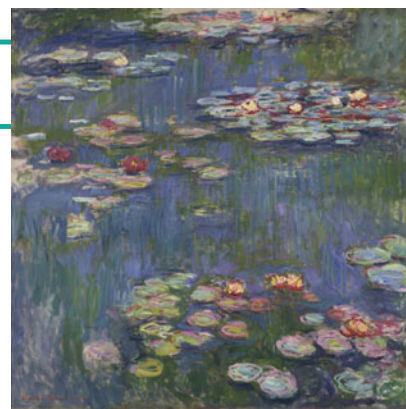
児島虎次郎《和服を着たベルギーの少女》
大原美術館



JR 上野駅下車 (公園口出口) 徒歩 1分 / 京成電鉄京成上野駅下車 徒歩 7分
東京メトロ銀座線、日比谷線上野駅下車 徒歩 8分

川口雅子

国立西洋美術館情報資料室長。東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程満期退学 (西洋美術史)。財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館レジストラ、当館研究員を経て 2007年より現職。研究資料センターの運用を担当。共編著に『松方コレクション西洋美術全作品』(国立西洋美術館発行、平凡社発売、全2巻、2018~2019年)。論文に「ロンドンに残された松方コレクション：パンテクニカン倉庫保管作品をめぐる資料調査報告」(『国立西洋美術館研究紀要』21号、2017)など。



クロード・モネ《睡蓮》
国立西洋美術館

Le Corbusier and the Age of Purism

国立西洋美術館開館60周年記念

ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代

[本館]

2019年2月19日(火) — 2019年5月19日(日)

開館時間 | 9:30 ~ 17:30 (金曜、土曜は 20:00 まで)

休館日 | 月曜日、(ただし、4月29日、5月6日は開館)、5月7日(火)

◆ 展覧会公式サイト <https://lecorbusier2019.jp> ◆ 展覧会公式 SNS   @lecorbusier2019



シャルル=エドゥアール・ジャンヌレ (ル・コルビュジエ)
《多数のオブジェのある静物》
1923年 油彩、カンヴァス 114×146cm
パリ、ル・コルビュジエ財団
©FLC/ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2018 B0365

20世紀建築の巨匠ル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館本館は、2016年にユネスコ世界文化遺産に登録されました。本展は、若きシャルル=エドゥアール・ジャンヌレ(ル・コルビュジエの本名)が故郷のスイスを離れ、芸術の中心地パリで「ピュリスム(純粋主義)」の運動を推進した時代に焦点をあて、絵画、建築、都市計画、出版、インテリア・デザインなど多方面にわたった約10年間の活動を振り返ります。第一次大戦の終結直後の1918年末、ジャンヌレと画家アメデ・オザンファンは、機械文明の進歩に対応した「構築と総合」の芸術を唱えるピュリスムの運動を始めました。そして、絵画制作に取り組みながら新しい建築の創造をめざしたジャンヌレは、1920年代パリの美術界の先端を行く芸術家たちとの交流から大きな糧を得て、近代建築の旗手「ル・コルビュジエ」へと生まれ変わります。

本展はル・コルビュジエと彼の友人たちの美術作品約100点に、建築模型、出版物、映像など多数の資料を加えて構成されます。ル・コルビュジエが世に出た時代の精神を、彼自身が作り出した世界遺産建築の中で体感できる、またとない機会となるでしょう。

夜間開室時間延長のお知らせ — 金・土は 20:00 まで! —

毎週、金曜・土曜は、常設展、「ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」展ともに、20:00までご覧いただけます。ゴールデンウィーク中は常設展は連日21:00まで開室延長いたします。(※「ル・コルビュジエ」展は金曜土曜は20:00、その他は17:30までとなります。)夜の美術館でゆったりと展示をお楽しみください。

4月							5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25
28	29	30	31				26	27	28	29	30	31	

■ 休館日 ■ 開室時間延長 (9:30~20:00) ■ ゴールデンウィーク/常設展のみ 開室時間延長 (9:30~21:00)

■ プレミアムフライデー/常設展 (9:30~21:00), ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代 (9:30~20:00)

※5月20日(月)~6月3日(月)まで全館休館

国立美術館がクラウドファンディングサイトを開設しました

国立西洋美術館開館60周年記念事業 クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》デジタル推定復元プロジェクト

クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》は、松方コレクションのひとつとしてその存在は知られており、長らく行方がわからなかった作品ですが、2016年にフランスで約60年ぶりに発見され、翌年、フランス政府から松方家に返還、そして松方家から国立西洋美術館に寄贈されました。発見時、画布の上半分を失うなどの損傷を受けており、現在、国立西洋美術館では作品の修復を進めています。

作品そのものの失われた部分を修復で取り戻すことはできませんが、このプロジェクトでは、作品の全図が写ったモノクロ写真や残存部の科学的調査などを頼りに、最先端のデジタル技術やAI技術などを駆使したデジタル復元によって、失われた部分も含めた全体像を現代によりみえさせます。推定復元したデジタル画像は、修復の終わった作品と共に、「国立西洋美術館開館60周年記念 松方コレクション展」(2019年6月11日(火)~9月23日(月・祝))での公開を予定しています。コレクションを築いた松方幸次郎が、当時の日本の若い画家たち、後世の私たちに見せたいと願ったモネの美しい大作を、次の世代へ伝えられるよう、ご参加お願いいたします。



クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》
油彩、カンヴァス 199.3×424.4cm 1916年 国立西洋美術館(旧松方コレクション)

左：発見時には上部が欠損し下部のみ画布が残る。右：欠損部分に破損前のモノクロ写真を重ねた状態。モノクロ写真を参考に全体像のデジタル推定復元に挑戦する。



クラウドファンディングの詳細情報はコチラ

<https://crowdfunding.artmuseums.go.jp/>



国立西洋美術館
The National Museum of Western Art